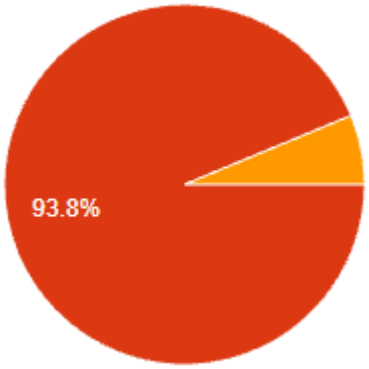
令和８年度　学校自己評価（中間）まとめ

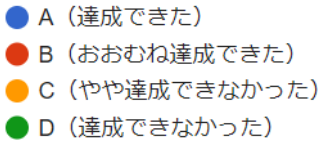
今年度、城下小学校では、学校教育目標「まなび　きたえ　ともにのびる子　～今を・未来を喜びをもって生きる子ども～」のもと、「自分から　つなげるあいさつ、つなげる学び、つなげるこころ　ねっちゅう、ぼっとう、ひたむきに取り組む　城下っ子」を重点目標に据えて、全職員で取り組んでおります。今年度前半の取組について、学校職員でふり返りを行いました。成果と課題を見極め、学校運営の後半に生かし、よりよい学校づくりをめざしていきたいと思います。

１．今年度の重点目標

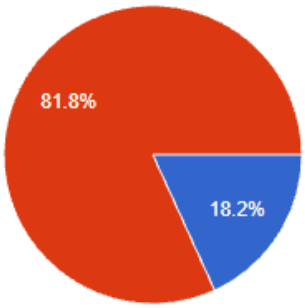
（１）『自分から つなげるあいさつ、つなげる学び、つなげるこころ、ねっちゅう、ぼっとう、ひたむきに取り組む　城下っ子』

令和８年度９月





令和７年度１２月



①成果

・「マナビュー」などの新たな取組を通して、職員同士が学び合いながら、重点目標の達成に向けて取り組むことができた。
・自分から気持ちのよいあいさつをする児童が増え、全校であいさつを大切にする雰囲気が広がってきた。
・授業では、集中して学習に取り組む時間が増え、自分の考えをもったり、友達に伝えたりする姿が見られるようになった。
・紙コップタワーや栽培した野菜を使った調理、造形遊びなど、児童の「やってみたい」という思いを生かした活動を通して、熱中・没頭し、自分の思いを形にする姿が見られた。
・特別な支援を必要とする児童も、それぞれのペースで意欲的に活動し、友達や外部講師とつながったり、次の活動への意欲を高めたりする姿が見られた。
・教科を横断した学びや生活経験とのつながりなど、学んだことを生かす姿が見られた。

②課題

・「ねっちゅう・ぼっとう・ひたむき」に取り組む姿は見られるものの、児童同士が協力し、学び合いながら活動を進める場面は、さらに充実させる必要がある。
・友達との関わり方や活動のルールに対する意識を高める必要がある。
・学習のゴールを明確にし、児童の考えが深まるような学習活動を工夫する必要がある。
・児童の「やってみたい」という思いを実現するため、事前の計画や約束の確認など、見通しをもって活動できるようにする必要がある。

③今後の方向

・あいさつのよい姿を積極的に取り上げて紹介するとともに、教師の声がけに頼らず、児童が自ら進んであいさつできるようにする。
・児童が自ら考え、友達と協力して取り組む活動を充実させ、「ねっちゅう・ぼっとう・ひたむき」の姿を「つながる学び」へと発展させる。
・児童の思いや願いを大切にし、学習のゴールや活動の見通しを明確にするとともに、一人一人の実態に応じた支援を工夫する。

・児童の姿や振り返りをもとに取組の成果と課題を共有し、職員同士が学び合いながら、重点目標の実現に向けて改善を重ねる。

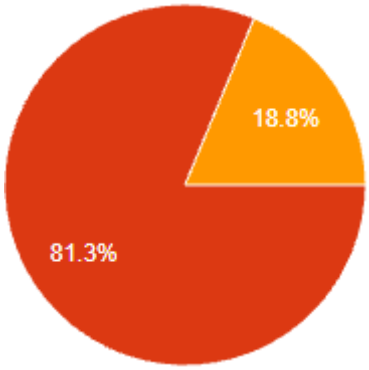
２．めざす子どもの姿

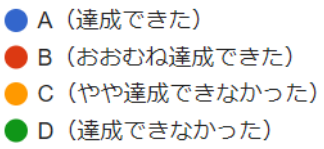
（１）自ら求めて学び合う子ども

『「あらわす」「はなす」「つなげる」ことを通して学びを豊かに』

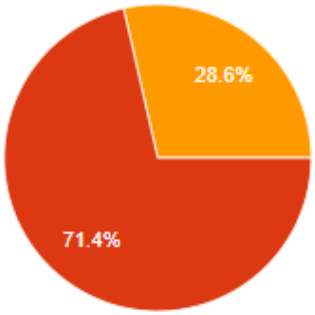
【自分の考えを書いたり発言したりして表現しよう】

令和８年度９月





令和７年度１２月



①成果

・授業の中にペアや小グループで意見交換する時間を意識的に設けたことで、自分の考えを発言したり、つぶやいたりする児童が増えてきた。
・自分の考えや気持ちをもつことが難しかった児童も、友達や教師の考えを聞くことで、自分なりの考えをもち、書いて表すことができるようになってきた。
・一人ひとりに合った表現方法を意識し、話すことだけでなく、書くことや表情、色などの視覚的な表現を取り入れたことで、自分の思いや考えを相手に伝える姿が見られるようになってきた。
・学習の中で疑問に思ったことや自分の思いを考える機会を設けたことで、自分の考えを表現しようと努力する児童が増えてきた。

②課題

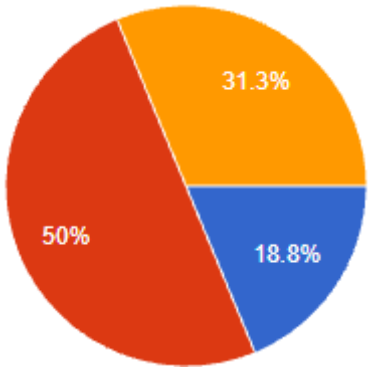
・自分の考えをもつことや表現することには個人差があり、自分から進んで発言することが難しい児童もいる。
・全体での挙手や発言が特定の児童に偏ることがあり、誰もが安心して自分の考えを表現できる環境づくりが必要である。
・自分の考えを深めることが難しく、友達や教師の考えをまねるだけにとどまる児童や、書くことに抵抗を感じる児童もいる。
・自分の思いをうまく伝えられず、友達とのトラブルにつながることがある。

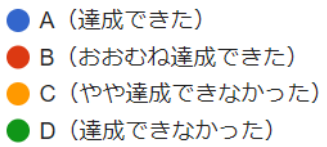
③今後の方向

・話す、書く、表情や色などで表すといった多様な表現方法を取り入れ、一人ひとりに合った伝え方を見つけられるよう支援する。
・ペアや小グループでの対話、授業の振り返りや感想を伝え合う活動を継続し、自分の考えを表現する機会を充実させる。
・児童が安心して発言できる学級の雰囲気づくりを進めるとともに、自分なりの考えをもち、友達との対話を通して考えを深められるよう、問いかけや活動を工夫する。
・児童の思いや願いを実現するために、計画や約束を視覚的に示すなど、見通しをもって行動できるよう支援する。

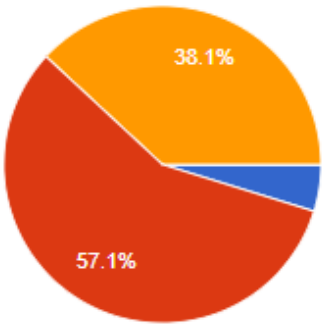
【自分の考えを友だちと伝え合おう】

令和８年度９月





令和７年度１２月



①成果

・教室の座席をコの字型にしたことで、互いの表情が見えやすくなり、自然に伝えたり聞いたりする姿が見られるようになった。
・ペアやグループで考えを共有する機会を増やしたことで、友達と話し合うことに慣れ、自分の考えを伝えられるようになってきた。
・自分の考えをもつことが苦手な児童も、少人数での話合いを通して、自分の思いを伝えたり表現したりできるようになってきた。
・生活や学習の中で、自分なりの方法で思いを伝えたり、友達の異なる考えを大切にしながら聞き合ったりする姿が見られる。
・低学年では、担任が間に入りながら思いを伝え合うことで、児童同士の関わり方が穏やかになってきた。

②課題

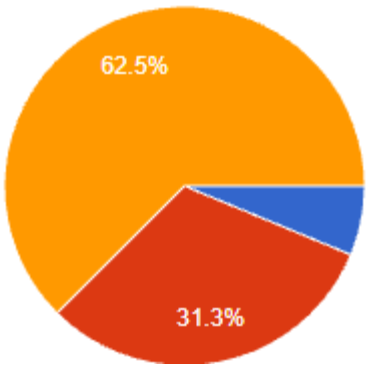
・伝え合う時間や場面の設定が十分でなく、話合いの目的や必要感を児童自身がもてるようにする必要がある。
・自分の思いを伝えることはできても、一方的な発言になったり、相手の話を聞く準備や姿勢が十分でなかったりする場面がある。
・少人数では自分の考えを伝えられても、全体の場になると恥ずかしさから発言が難しくなる児童がいる。
・友達と考えを伝え合うことはできても、互いの考えをつなげたり、よりよい活動や考えを生み出したりするまでには至っていない場面がある。

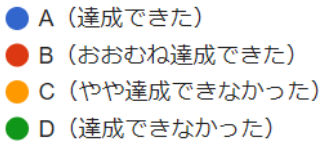
③今後の方向

・児童が話合いの目的や必要感をもち、主体的に伝え合えるよう、活動のねらいを明確にし、意図的に時間や場を設定する。
・ペアやグループなどの学習形態を工夫し、安心して自分の思いを表現できる機会を重ねながら、少人数での話合いから全体での発表へと段階的につなげる。
・話し手と聞き手の双方が相手を意識し、思いや考えを大切にしながら伝え合えるよう、具体的な言葉がけや話合いの仕方を継続して指導する。
・教師の支援や言葉がけを工夫し、児童同士が互いの考えをつなぎ、協力してよりよい活動をつくり出せるようにする。

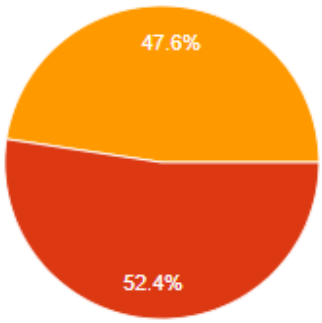
【友だちの考えや今まで学んだことをいかし、自分の考えをよりよいものにしよう】

令和８年度９月





令和７年度１２月



①成果

・既習事項を確認したり、友だちの発言を受けてさらに考えを深める発問を工夫したりすることができた。
・友だちの考えを聞いて、なるほどと思ったことを書き加えるなど、他者の考えを取り入れようとする姿が見られた。
・友だちの意見に共感したり反応したりすることができるようになり、自分の考えと比較したり、既習事項を振り返ったりする機会も増えてきた。
・授業や振り返りの場面で、友だちの考えから学んだことに目を向けられるよう、声掛けを工夫することができた。

②課題

・友だちの考えを聞く機会は確保できているものの、それを自分の考えに取り入れたり、比較・検討したりして、自分の考えをよりよいものに高めることは十分ではない。
・自分の意見を伝えるだけで終わってしまう児童もおり、他者の考えを生かして理解を深めたり、考えを更新したりすることに課題がある。
・低学年では、友だちの考えを聞いて自分の考えを深めることが難しく、発達段階に応じた支援が必要である。
・友だちの考えを聞くだけでなく、学んだことを実践や応用につなげるための手立ても十分ではない。

③今後の方向

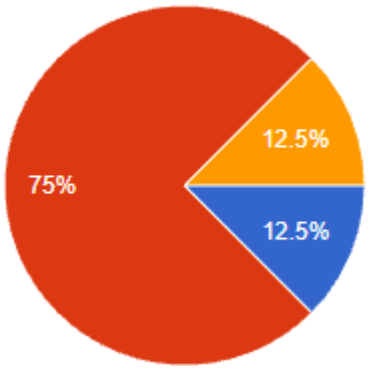
・自分の考えをもつ、友だちに伝える、互いの考えを比較する、他者の考えを取り入れて自分の考えを更新するという過程を、スモールステップで積み重ねていく。
・友だちの考えを聞いて「なるほど」と思ったことや、自分の考えと変わったところを意識できるよう、発問や振り返りの視点、声掛けを工夫する。
・前期の取組を土台に、友だちとの関わり合いを充実させるとともに、既習事項や他者の考えを生かして、学びを広げたり深めたりする場面を増やしていく。

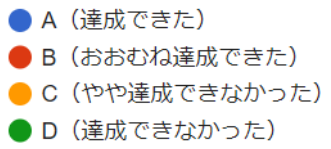
（２）明るくたくましい子ども

『「三方よし」心を交わすあいさつ、コミュニケーション、笑顔』

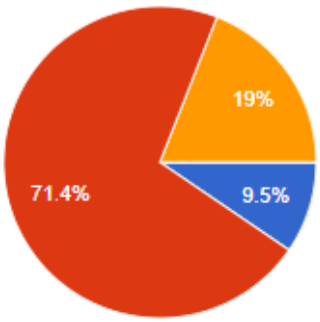
【あいさつをした人、あいさつをされた人、まわりの人みんながうれしくなるあいさつをしよう】

令和８年度９月





令和７年度１２月



①成果

・教職員が毎朝一人ひとりに明るくあいさつをすることを心がけた結果、あいさつを返す児童や、自分から元気にあいさつをする児童が増えてきた。

・学級であいさつの大切さを確認し、朝や帰り、授業、給食など、場面に応じたあいさつやお礼の言葉を意識することで、あいさつの声が明るくなるなど、改善が見られた。

②課題

・あいさつができる児童が増えてきた一方で、自分から進んであいさつをすることや、相手の目を見てあいさつをすること、礼儀正しいあいさつには課題がある。

・担任や親しい教職員にはあいさつができても、他の教職員や来校者など、相手や場面に応じたあいさつが十分にできていない。

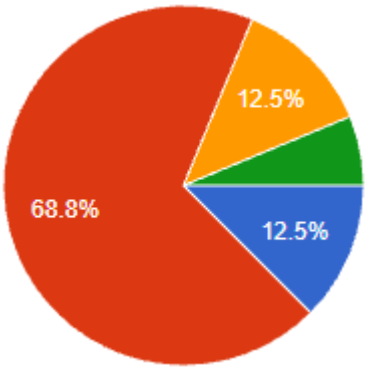
③今後の方向

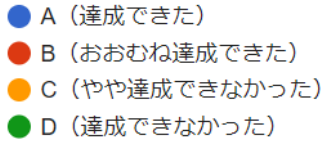
・あいさつあふれる学校の具体的な姿を教職員と児童で共有し、あいさつをする側・される側の双方の立場から振り返る機会を設ける。

・あいさつをする意味や、相手を意識した気持ちのよいあいさつについて児童と一緒に考え、教職員自らが率先してあいさつを続けるとともに、日常的な声がけを通して学校全体に広げていく。

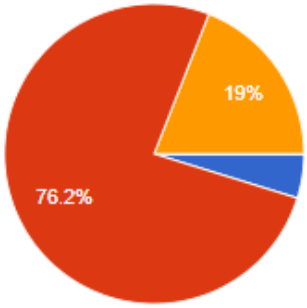
【自分らしいあいさつで心を交わそう】

令和８年度９月





令和７年度１２月



①成果

・大きな声で挨拶を返す、自分から挨拶する、会釈するなど、一人ひとりが自分なりの方法で挨拶をする姿が増えてきた。

・さわやかで明るい挨拶ができる子どもが増え、教師と児童の間で挨拶が交わされている。

・校長講話をきっかけに、さまざまな挨拶の仕方があることを認め、学級全体で取り組む姿が見られた。
・声だけでなく、表情や身振り、会釈など、それぞれの表現方法で挨拶を伝える姿が見られた。

②課題

・自分から挨拶をしたり、友達同士で挨拶を交わしたりすることが難しい子どももいる。
・児童同士の挨拶は、仲の良い友達同士にとどまる傾向があり、学年や学級、友達の関係を越えた挨拶には課題がある。

③今後の方向

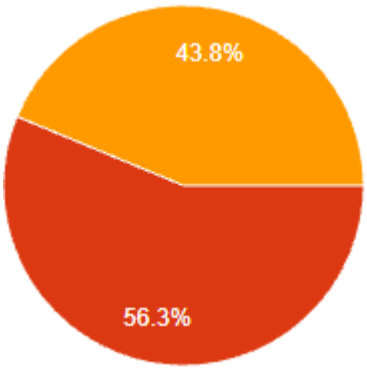
・一人ひとりの気持ちや表現方法を大切にし、声や身振りなど、自分らしい方法で挨拶することを認めていく。
・挨拶を人と関わるきっかけとして捉え、教師からの働きかけや日常の声がけを通して、子ども同士が自分から挨拶を交わす姿につなげていく。

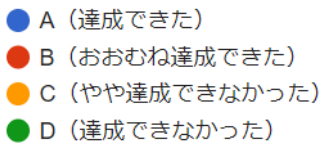
（３）友や地域と関わり感じ合えるこども

『城下地域の「人、もの、こと」のよさや地域の方への感謝（協働的な学び、生活科・総合）』

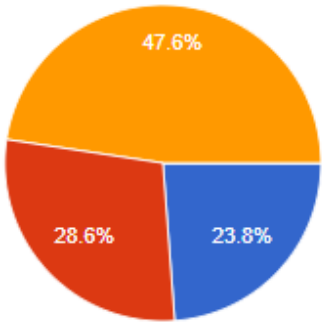
【地域や人々と関わる活動を通して、地域のよさや地域に生きる自分のよさを感じよう】

令和８年度９月





令和７年度１２月



①成果

・総合的な学習の時間に蚕を飼育し、上田市で養蚕が盛んだったことや地域に工場があることを知ることで、地域への愛着を育むことができた。
・校外学習では、地域だからこそできることに着目して発問することで、子どもたちの意識を地域に向けることができた。
・こすもす広場では、地域ボランティアと一緒に遊びを楽しんだり、地域の方と触れ合ったりすることを通して、感謝の心を育むことができた。また、特別支援学級の音楽療法など、地域の方との交流を通して楽しく活動する機会も得られた。

②課題

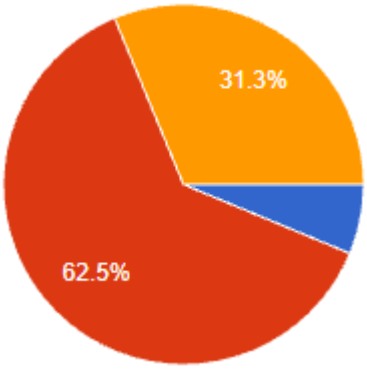
・地域の方々と関わる機会が少なく、地域とのつながりを十分に深めることができなかった。
・高学年になると、こすもす広場などで地域の方と関わる姿が少なくなる傾向が見られた。
・子どもたちが自ら地域に目を向け、地域の方と関わりながら主体的に学べる場を十分に設定することができなかった。

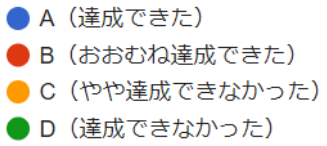
③今後の方向

・こすもすタイムなどを活用し、ホッとガード城下、こすもす広場、まほうのランプなど、地域の方々と触れ合う機会を大切にし、子どもたちと地域をつなぐ活動を工夫する。
・各学年の地域に関わる活動について、職員間で情報を共有・発信し、学校全体で地域とのつながりを意識した教育活動を推進する。
・地域の人・もの・ことを生かし、子どもたちが地域のよさや課題に気付き、自ら考え、主体的に学ぶことができる活動を充実させる。

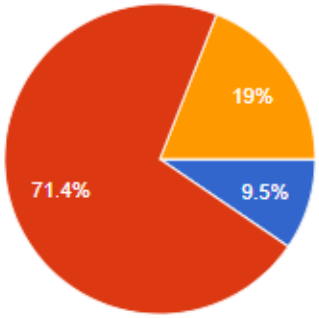
【学校や地域を支えてくださっている方々に感謝しよう】

令和８年度９月





令和７年度１２月



①成果

・ホッとガードの方々や「こすもすひろば」「まほうのランプ」の皆様との関わりを通して、地域の方々が自分たちを支えてくれていることに気付き、感謝の気持ちをもつ姿が見られた。
・道徳の授業や日常の振り返りを通して、自分たちの生活を支えてくれている人について考えることができた。
・横断歩道で車が止まってくれた際に、お礼を伝えるなど、感謝の気持ちを行動で表す姿が見られた。
・「こすもすひろば」にこすもす学級も加わることで、地域の方々と穏やかな表情で触れ合うことができた。

②課題

・地域の方々への感謝の気持ちをもつことはできているが、それを自分から伝えたり、具体的な行動に表したりする機会が十分ではなかった。
・地域の方々との関わりが、活動の始めと終わりの挨拶などにとどまり、日常生活の中で支えてくれている人に気付くまでには至っていない面がある。

③今後の方向

・地域探検や生活科・総合的な学習の時間などを通して、地域の方々と直接関わり、支えていただいていることへの理解を深める。
・地域の方々への感謝の気持ちを手紙や挨拶などで具体的に伝える機会を設け、自分から感謝を表す姿につなげていく。
・登下校の見守りや環境整備など、日常生活のさまざまな場面に目を向け、自分たちを支えてくれている人に気付き、感謝の気持ちをもって関わることができるようにする。